

## 第2章 アンケート結果の概要

### 1 本市の小中一貫教育のねらい(7項目)に係る内容について

#### 1-1 「9年間を見通した系統的・継続的な学習指導」についての意識

- ①児童生徒は「授業はこれまで習ったことやこれから習うことにもふれて進められていると思う」に対して、8割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。肯定的回答割合は中学校1年生が最も高い。
- ②保護者は「授業で、これまでに習った事や今後習うことにもふれるなど、学習内容のつながりが意識されていると思う」に対して4割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。一方、2割程度が「わからない」と回答している。
- ③ほぼ全ての小・中学校が9年間を見通した系統的・継続的な学習指導を意識するようになったとしている。

#### 1-2 「9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導」についての意識

- ①児童生徒は「担任の先生だけでなく、他の学級・学年の先生や(小学校の先生など)多くの先生と話したりすることが多くなっていると思う」に対して小学校4年生から中学校1年生では6～7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。中学校1年生の肯定的回答割合は7割程度と最も高いが、中学校2年生では肯定的回答割合は5割程度と最も低くなっている。
- ②保護者は「担任の先生だけでなく、他の学級や学年の先生など多くの先生と話したりすることが多くなっていると思う」(小学生保護者)に対して4割程度の保護者が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③ほぼ全ての小・中学校が9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導を意識するようになったとしている。

#### 1-3 「9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動」についての意識

- ①「地域を知ったり、地域の人たちといっしょに活動したりする学習が多くなっていると思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は小学生では4～5割程度、中学生で3割程度である。
- ②「地域の方を先生として招いたり校区の良さを知る活動など、地域と結びついた教育活動が計画的に行われていると思う」に対して小学校の保護者は5割程度、中学校の保護者は4割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。また、2割程度が「わからない」と回答している。
- ③8割以上の小・中学校が9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動を行うようになったとしている。

#### 1-4 「児童生徒間の多様な交流活動や地域社会との交流」についての意識

- ①小学生では「他の学年や近くの小学校、中学校の人といっしょに活動するようになっていると思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」との回答が4割程度で、さらに中学校2年生では3割程度と低くなっている。
- ②「異学年交流や小・中学校との交流が多く行われていると思う」に対して小学校の保護者は5～6割程度、中学校の保護者は4割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。肯定的回答割合は小学校6年保護者が6割程度と最も高い。
- ③ほぼ全ての小・中学校が児童生徒間の多様な交流活動や地域社会との交流を意識するようになったとしている。

#### 1-5 「児童生徒一人一人への理解を深めること」についての意識

- ①小学生、ならびに中学校1年生は「自分のことを先生がしっかりわかってくれるようになったと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は6割程度であるが、中学校2年生では4割程度と低くなっている。
- ②保護者が「先生は、我が子のことを多方面から深く理解していると思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は4～5割程度である。肯定的回答割合において小学校6年生保護者が最も高く、中学校1年生保護者が最も低いものとなっている。
- ③9割の小・中学校は児童生徒一人一人への理解が深まったとしている。

#### 1-6 「小学校と中学校の教職員が相互に交流を深めること」についての意識

- ①小学生は「小学校や中学校の先生たちが、授業してくれたり、参観してくれたりするようになったと思う」に対して6～7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答しているが中学校2年生では2割程度にとどまっている。

- ②「小・中学校の先生がいっしょに授業参観したり、研修をしたりして交流を深めていると思う」に対して小学校の保護者は「そう思う」「おおむねそう思う」との回答は4割程度であるが、中学校の保護者は5割程度である。2割程度の保護者が「わからない」と回答している。
- ③全ての小・中学校が「小中一貫教育の実施により、小・中学校教職員間の交流が深まった」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。

## 1-7 「中学校ブロックを単位とした地域社会・保護者相互の連携を深めること」について

- ①児童生徒は「小・中学校がいっしょになった地域での行事やPTA・育友会行事が増えたと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は2～4割程度と低い。また、2～3割程度が「わからない」と回答している。
- ②保護者は「中学校ブロックでの地域の集まりやPTA・育友会活動が増えたと思う」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は2～3割程度と低い。また、学年によっては4割程度が「わからない」と回答している。
- ③小・中学校は「小中一貫教育の実施により、中学校ブロックを単位とした地域社会、保護者相互の連携が深まった」に対して8割が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。

## 2 小・中学校間のなめらかな接続を進めるための取組などについて

### 2-1 校種間の乗り入れ授業（指導）について

- ①「担任以外の先生や中学校の先生にも教えてほしいと思う（小学生）」に対して小学校4年生では7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答しているが、学年が進むにつれてその割合は減少している。中学生では「わからない」と2割程度が回答している。
- ②保護者は「小学校でも、担任の先生や中学校の先生にも我が子を指導してほしいと思う」に対して7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③8割程度の小・中学校が中学校ブロックでの体制や条件を整えば、他校で授業や部活動などの指導をしてもよいとしている。

### 2-2 不安や戸惑いについて

- ①児童生徒は「小・中学校がいっしょになって行事などをすることに心配はない」に対して5～6割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ②保護者は「小中一貫教育を行うことに戸惑いはない」に対して4割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③小・中学校は「小中一貫教育を行うことに不安や戸惑いはない」に対して7割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。

### 2-3 広報活動について

- ①児童生徒は「近くの小学校や中学校のようすが、おたよりや掲示板などでわかるようになった（小学校）」に対して4割～5割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ②保護者は「リーフレットやたより、インターネットなどで、宇治市の小中一貫教育の取組状況を知ることができている」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合が4割程度である。また、「わからない」と2割の保護者が回答している。
- ③ほぼ全ての小・中学校が「市教委や中学校ブロックなどが発行するリーフレットなどは小中一貫教育の取組全般について保護者や地域住民に広報することに役立っている」と回答している。

### 2-4 小・中学生の交流活動や合同行事について

- ①小学生では「小学生と中学生がいっしょに活動することは大切だと思う」に対して6割が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ②保護者は「我が子の成長にとって、小学生と中学生の交流活動や合同行事などを行うことはよいことだと思う」に対して7～8割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。
- ③ほぼ全ての小・中学校が児童生徒の交流活動や合同行事は教育的に有効であるとしている。

### 2-5 自尊感情の育成について

- ①児童生徒は「上級生や中学生を、すごいと感じるようになった」に対して「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した割合は5～7割である。小学校4年生と中学校1年生では「そう思う」「おおむねそう思う」と7割が回答している。

- ②保護者は「我が子は交流活動などを通して、上級生をよき兄、姉と感じたり、よき兄、姉になろうとしたりするようになった」に対して4～5割程度が「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。小学校6年生の保護者の「そう思う」「おおむねそう思う」との回答は6割程度と他の学年より高い。
- ③8割をこえる小・中学校は小中一貫教育により自尊感情が育つと考えている。

### 3 小中一貫教育を進める中学校ブロックの体制等について

- ①全ての小・中学校は中学校ブロックにつくられている推進組織が小中一貫教育の推進に必要と考えている。
- ②全ての小・中学校は小中一貫教育（チーフ）コーディネーターや小中連携教員の存在や、中学校ブロック内の授業や指導の様子を相互に参観すること、合同研修を行うことが小中一貫教育の推進に必要と考えている。

### 4 中学校入学に係る心配や不安、悩み、戸惑いなどについて

- ①「中学校入学に向け、心配や不安に思うことがありますか（小学生）」「中学校入学直後、悩んだり、戸惑ったりしたことがありますか（中学生）」に対しての児童生徒の回答を見ると、不安、悩み、戸惑いを示しているのは「中学校での友だち関係」「中学校での先輩との関係」「学習の進め方や定期テスト」の3項目が上位である。総じて小学校6年生で最も不安傾向を示し、中学校1年生で減少している。
- ②「お子さんの中学校入学に向け、保護者として心配や不安に思っておられることはありますか（小学校）」「お子さんが、中学校入学直後、悩んだり、戸惑ったりしていたと感じたことはありましたか（中学校）」に対しての保護者の回答を見ると不安、悩み、戸惑いを示しているのは「中学校での友だち関係」「中学校での先輩との関係」「中学校での部活動」「学習の進め方や定期テスト」の4項目が上位である。「部活動」を除き、児童生徒の傾向と共通している。
- ③7割程度の小・中学校が「中1ギャップ」を感じるがあると回答している。

### 5 小中一貫教育の取組を進めることにより期待する成果について

- ①保護者はほぼ全ての項目で8割程度「そう思う」「おおむねそう思う」と回答しており、その期待は大きい。特に「そう思う」と強く、成果を期待している項目は「学力の充実」「教職員の資質と指導力の向上」「個に応じた指導の充実」「豊かな人間性や社会性の育成」の4項目である。
- ②小・中学校は全ての項目で9割程度「そう思う」「おおむねそう思う」と回答している。特に「そう思う」と強く成果を期待している項目は「学力の充実」「学習習慣の確立」「学校・家庭・地域社会が一体となった教育環境づくり」の3項目である。

### 6 昨年度との比較について（ねらい・取組に対する質問より）

- ①児童生徒では、明らかに差が見られると考えられる10ポイントを超えて増加した項目は「系統的学習」「異校種、異学年交流」「小中教職員の交流」「小中が交流した地域行事」の4項目である。その内の3項目が中学校1年生、残りの一つが中学校2年生である。他の項目においても総じて中学生の肯定的回答割合の増加が見られる。中学校1年生では9項目が増加しており、中学校2年生においては全ての項目において増加している。
- ②保護者では、10ポイントを超えて増加した項目はないものの、全体の8割の項目で肯定的回答割合が増加している。
- ③学校では肯定的回答割合が減少している項目はない。「不安・戸惑い」「自尊感情の育成」については10ポイントを超えて増加している。

### 7 グループ別の比較について（ねらい・取組に対する質問より）

- (1)「分散進学あり」「分散進学なし」のグループ比較
  - ①児童生徒では「広報活動」における1項目において「分散進学あり」グループの方が肯定的回答割合が10ポイント以上高くなっている。
  - ②保護者では10ポイント以上の差がある項目はない。
- (2)「施設分離型」「施設一体型」グループの比較
  - ①児童生徒では10ポイント以上の差が7項目においてあり、全ての項目において「施設分離型」グループの方が肯定的回答割合が高い。
  - ②保護者では10ポイント以上の差が3項目においてあった。その内の2項目において「施設一体型」グループの方が肯定的回答割合が高い。